東海鉄道OB会報

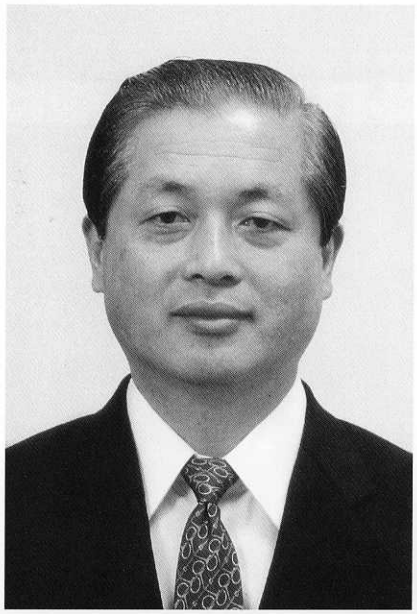
第12号
平成20年1月

夫婦岩（三重県）

目次

OB会の新しいページを開こう　東海鉄道OB会会長　齋藤　蓊　：　2
新年を迎えるにあたり　東海旅客鉄道株式会社　代表取締役社長　松本正之　：　3
法人会員新年挨拶……　4
支部の新設と合併　名古屋地方本部　：　6
平成十九年 秋の生存者叙勲受章者　：　6
増収協力活動の一環としての地方本部主催団体バス旅行　名古屋地方本部　事務局長　加藤寿美夫　：　6
半田市鉄道資料館屋外展示品をJR半田駅北側へ移設　半田支部長　河合由平　：　7
千種駅前を美しく　千種名東支部副支部長　岩田敬二　：　7
第二回 静岡・焼津・藤枝三支部合同親善グラウンドゴルフ大会　藤枝支部　副支部長　村松　弘　：　8
富士山一斉清掃に参加　御殿場支部長　小松眞清　：　8
二〇〇七年秋 さわやかウォーキング「歩こみゃあ名古屋の文化のみち」のコース案内に参加して　名古屋東・守山・名城東北支部連合　：　9
「デゴイチ」見学会を実施　中津川支部　渡辺典雄　：　9
さわやかウォーキングの応援　三河支部　鷲尾孝一　：　10
猿投温泉日帰り旅行　春日井支部　川島満雄　：　10
JR東海トピックス……　10
グループインフォメーション……　11
読者のひろば……　15
駅探訪／「会報への寄稿、文芸欄への投稿」要領／編集後記……　16
20

ＯＢ会の新しいページを開こう



東海鉄道OB会会長
齋藤　翕（しげる）

平成二十年の年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様にはご家族お揃いで佳き新年をお迎えのことと心からお慶びいたします。

私事、四半世紀余に亘ってＯＢ会運営とその改組にご尽力願った堀内前会長からバトンを引き継がせて戴き、半年が経過しました。何分若輩ですが皆様のご支援ご協力を戴き乍らお役目を果たして参る所存ですので宜敷くお願いいたします。

さて、早いものでＪＲは昨年、会社発足二十周年を迎えましたが、ＯＢ会は国鉄時代以来の全国一本の組織を、ＪＲ各社単位の自主独立組織による連合体に改組してから、今年で四年目に入ることになります。

ところで、我々は目下、経済・社会の未曾有の構造的変化の只中にあると言われます。

ひとつには急激な少子化、長寿化の進展による世界最速でのいわゆる成熟社会への突入です。もうひとつは資源、エネルギーや環境問題の制約化に伴う、長年の右肩上り経済の終焉であります。このような時代状況は、個人にとっても、企業や地域にとっても大きなストレスをもたらしており、わがＯＢ会の存在、役割にも大きな変化と新たな期待が寄せられることになります。

家族関係や地域社会、つまり「血縁」や「地縁」の絆に綻びが見え始めているのに対して、昔馴染みの仕事仲間、「職縁」のつながりはそれだけ貴重なものになっているのではないでしょうか。先に行われた自主独立型で、より身近なＯＢ会組織への改組もそのひとつの答えだと言えましょう。

加えて、長寿化の伸展に伴い増加する高齢者を単なる「弱者」扱いをするだけで良いのかと言う問いかけもあります。

九十六歳で益々お元気に幅広い分野で大活躍されている日野原・聖路加国際病院理事長の「昔乍らの年齢感覚で考えては誤る。寿命の延びた今日、男性は八掛け、女性は七掛けが正当」とのご指摘は大方の実感として納得を得ているようです。実際、年金支給開始年齢の引き上げとこれに合わせた雇用年限の引き上げ等の社会制度の改正の動きや退職後のＮＰＯ活動等、生き甲斐を求めるライフスタイルへの関心の高まりが世の中に受け容れられているのは確かです。退職後のケアも企業評価の大事なポイントになって来るでしょう。

ここで多くは申せませんが、わがＯＢ会においてもこのような大きな変化の中で、地方本部や支部レベルで既に実行に移されている活性化施策は少なくありません。

ベースである支部組織の多様化、つまり支部の合併や職域あるいは企業支部の併置がそれであり、また、会員の掘り起こし、つまり勧誘パイプの強化やカップル単位での加入による女性パワー、若年パワーの導入も有効です。そして何よりも「楽しむＯＢ会」づくりが肝心。つまり文化、スポーツ等の同好クラブや各種大会、催事の充実、ＳＬ保存や少年団活動等、ＪＲ・社会貢献の場のプロモートなどなど。「案ずるよりまず実行」でのチャレンジを大いに盛り立てて参りたいと考えています。

新年を迎えるにあたり

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長
松本 正之

あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も安全・安定輸送の確保を最優先に一層の競争力の強化とサービス向上に取り組んだ結果、業務全般に亘り良好な実績をあげることができました。

東海道新幹線では、7月のダイヤ改正で最新技術を取り入れたＮ７００系車両の営業運転を開始するとともに品川駅朝6時始発の「のぞみ」を新設するなど、さらに利便性を高めました。

在来線では、３１３系新製車両の投入を進め、3月には静岡地区を中心に列車の増発や運行パターンの見直しを行うなどのダイヤ改正を実施しました。また、平成16年の台風により被災した高山本線の復旧工事が9月に完了し、3年ぶりに全線での運転を再開しました。

関連事業では、「ナゴヤセントラルガーデン」において第1期分譲マンションの入居を開始するとともに商業施設を開業したほか、9月には「ホテルアソシア静岡」を全面リニューアルオープンしました。

本年も、引き続き安全・安定輸送の確保を最優先に、質の高いサービスの提供にグループ全体の総合力を結集して取り組んでいきます。

東海道新幹線では、引き続きＮ７００系車両の投入を進め、東海道・山陽直通「のぞみ」のＮ７００系車両による運転を順次拡大します。また、輸送基盤強化のため電源設備の増強や新大阪駅におけるホームの増設などの工事を進めます。

在来線では、運転情報記録装置、緊急列車停止装置等の設置やＡＴＳ－ＰＴの導入に向けた工事を進めます。また、線区及びエリアの特性に応じた輸送体系の最適化に取り組みます。

営業面では、まず、3月にＩＣを活用した新しいサービスであるエクスプレス予約のＩＣサービスを開始します。また、「ＴＯＩＣＡ」の利用エリアを静岡地区へ拡大するとともに「Ｓｕｉｃａ」「ＩＣＯＣＡ」との相互利用開始による東海道新幹線と在来線のシームレスな乗継を実現します。

超電導リニアでは、山梨リニア実験線において更なる長期耐久性の検証、および一層のコスト低減等を目指した走行試験を行います。また、平成25年度末の走行試験開始に向けて実験線の設備更新及び延伸を着実に進めます。さらに、東海道新幹線の発展的、代替的バイパスを推進・実現するべく検討を進めていきます。

技術開発では、引き続きより高いレベルの鉄道輸送サービスを提供するための開発やコスト低減につながる開発を行うとともに、新たな分野にも取り組んでいきます。

関連事業では、より一層グループ会社間の連携を強化し、企業グループとしての発展を目指します。3月には「新横浜中央ビル」を開業するとともに、引き続き社宅跡地の開発などを推進します。

本年も、東海鉄道ＯＢ会の皆様のご健勝・ご活躍をお祈りするとともに、皆様のご期待に応えられますよう一層の努力を続けてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

あけまして おめでとうございます （順不同）	ジェイアール東海バス㈱ 代表取締役社長　渡部　一俊	ファーストエアートランスポート㈱ 代表取締役社長　竹下　正純	ジェイアール東海物流㈱ 代表取締役社長　石丸　洋	㈱東海交通事業 代表取締役社長　粕渕　輝雄	㈱ジェイアール東海パッセンジャーズ 代表取締役社長　建守　猛
東海キヨスク㈱ 代表取締役社長　齋藤　翁	ジェイアール東海フードサービス㈱ 代表取締役社長　加藤　公一	ジェイアール東海商事㈱ 代表取締役社長　江藤　文人	ジェイアールセントラルビル㈱ 代表取締役社長　天谷　昭裕	ジェイアール東海不動産㈱ 代表取締役社長　志田　威	豊橋ステーションビル㈱ 代表取締役社長　荒川　勉
名古屋ターミナルビル㈱ 代表取締役社長　酒井　吉彦	静岡ターミナル開発㈱ 代表取締役社長　栗栖　哲義	浜松ターミナル開発㈱ 代表取締役社長　向山　雅衛	名古屋ステーション開発㈱ 代表取締役社長　阿曽　克彦	ジェイアール東海静岡開発㈱ 代表取締役社長　髙橋　陵太郎	東京ステーション開発㈱ 代表取締役社長　明石　洋一
㈱ジェイアール東海ホテルズ 代表取締役社長　深山　靖	静岡ターミナルホテル㈱ 代表取締役社長　馬場　誠	名古屋ターミナルホテル㈱ 代表取締役総支配人　柴田　秋雄	㈱ジェイアール東海ツアーズ 代表取締役社長　吉田　修	㈱ジェイアール東海エージェンシー 代表取締役社長　今村　元	㈱ウェッジ 代表取締役社長　松本　怜子
	新生テクノス㈱ 代表取締役社長　関　秋生				

あけまして おめでとうございます

（順不同）

ジェイアール東海建設㈱ 代表取締役社長　本多　啓	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス㈱ 代表取締役社長　澁谷　高司	中央リネンサプライ㈱ 代表取締役社長　宮内　忠雄	ジェイアール東海情報システム㈱ 代表取締役社長　今福　博之	日本機械保線㈱ 代表取締役社長　杉山　徳平	東海交通機械㈱ 代表取締役社長　佐野　守彦
新幹線エンジニアリング㈱ 代表取締役社長　高瀬　義道	新幹線メンテナンス東海㈱ 代表取締役社長　渡邉　高峯	セントラルメンテナンス㈱ 代表取締役社長　磯﨑　哲	㈱関西新幹線サービック 代表取締役社長　藤田　邦隆	東海整備㈱ 代表取締役社長　佐藤　愼一	シーエヌ建設㈱ 代表取締役社長　寺島　優
㈱鉄友社 代表取締役社長　赤峰　博文	㈱名古屋鉄友社 代表取締役社長　井上　隆次	㈱中部総合ビルサービス 代表取締役社長　井上　隆次	日本車輌製造㈱ 代表取締役社長　生島　勝之	名工建設㈱ 代表取締役社長　増永　防夫	㈱全日警 代表取締役社長　片岡　直公
㈱リック・フーズ 代表取締役社長　齋藤　翥	名古屋通信工業㈱ 代表取締役社長　清水　源治	アイワ電設開発㈱ 代表取締役社長　加藤　清勝	東邦電気工業㈱ 代表取締役社長　山内　英樹	日本貨物鉄道㈱　東海支社 取締役支社長　瀬山　正	
鉄建建設㈱　名古屋支店 執行役員支店長　阿比留　卓雄	ジェイアール東海コンサルタンツ㈱ 代表取締役社長　土井　利明	双葉鉄道工業㈱ 代表取締役社長　磯浦　克敏			

支部の新設と合併

名古屋地方本部

一　新幹線名古屋施設支部の新設

新幹線施設関係の職場に在職しＪＲ東海、旧国鉄を退職された方々で、東海鉄道ＯＢ会の趣旨に賛同して入会を希望される方々で、職域支部を新設して会員相互の親睦・啓発と連携を深め、福祉の増進を図るとともに、ＪＲ東海及びこれに関連するグループの事業発展に寄与するため、九月二十二日に「新幹線名古屋施設支部」の設立総会を名古屋厚生年金会館にて開催した。約百名の方々が出席し入会され、支部規約の制定と、支部役員を選任し、平成十九年十月一日を支部設立日とした。

なお、設立総会に引き続き懇親会が開催され、ＪＲ東海新幹線鉄道事業本部施設部長、関係現場長のほか関連会社幹部、東海鉄道ＯＢ会名古屋地方本部長の方々が臨席され祝辞、エールを頂いた。

二　千種名東支部と鶴舞支部との合併

名古屋地方の鉄道ＯＢ会は、昭和四十年五月に名古屋地方連合会として三支部を設立し、そのうち名古屋近郊の会員で「名古屋支部」を設立した。

その後、昭和四十一年三月に千種支部（後に「千種名東支部」に改称）が、昭和五十一年七月に「鶴舞支部」が分離してそれぞれ支部活動を展開してきた。しかし、最近会員数が著しく減少し、今後の支部活動が困難な状況になると推察されることから、地域的に区域が市の交通網整備で分け隔てなくなり、両支部の基本的な支部運営方針等にも相違がなく、両支部が早期に合併して、活性化した新しい支部として発足するのが会員のために良策と考えられたので両支部は、平成十九年度の支部総会で会員の了解を受け、平成十九年十一月一日付をもって合併した。

なお、新支部の名称は、名古屋地区の将来展望を考慮して「名古屋東支部」とした。

平成十九年秋の生存者叙勲受章者

東海鉄道ＯＢ会員で、平成十九年秋の生存者叙勲を受章されたのは、次の七名の方です。

おめでとうございました。

旭日双光章	丸山定男	（恵那支部）
瑞宝双光章	大橋和朗	（岐阜工事局支部）
瑞宝単光章	杉山静男	（長泉支部）
瑞宝単光章	鈴木　武	（掛川支部）
瑞宝単光章	土屋仁平	（裾野支部）
瑞宝単光章	中山文雄	（沼津支部）
瑞宝単光章	山田禎男	（静岡支部）

増収協力活動の一環としての地方本部主催団体バス旅行

名古屋地方本部　事務局長　加藤寿美夫

恒例の名古屋地方本部主催の団体旅行は、今年で二十七回目となり約百六十名の参加協力が得られ、ジェイアール東海バス五両を使い、紅葉の昇仙峡と石和温泉の旅と銘打って十一月八日・九日の一泊で実施した。バスは機動性に優れているところから、ＪＲバス名古屋駅発となるのは二両だけとなったが、平井本部長ほか大勢の参加者は、ジェイアール東海バスの幹部の方々の見送りを受けて出発した。

秋たけなわの好天に恵まれた旅は、途中、中央道神坂ＰＡで勢揃いし、既に車内では荷物を軽くするのだとして持ち込んだ酒に手をつけるなども始まり、一路伊那路を進み、近くに遠くに見える中央アルプスの山々の色づいた景色を眺めるうち、昼食地に到着。信州牛しゃぶしゃぶ食べ放題というふれこみが食事半ばにしてガス器具故障というハプニングがあった。車窓から木曽駒や諏訪湖を見ながら最初の目的地のワイン工場では、近代化された設備の見学もそこそこに試飲を重ね、早々と沢山買い込む姿が見られた。

続いて、古えに思いを馳せながら武田神社や甲斐善光寺に頭を垂れ、日暮れてから宿泊地石和温泉に到着。旅の疲れと汗を流し、早速お待ちかねの酒盛りの宴が始まった。

地方本部長から参加者への謝辞、記念品贈呈に続いて参加者代表による乾杯の発声で幕が開き、すぐ佳境に入った。甲州名物に舌鼓みを打ちつつ久し振

りの旧友と酒を酌み交わすなど時の過つのは早く、予定を大幅に超えての幕引きとなった。

翌朝、早々に身支度を済ませた参加者の、ホテル売店コーナーでのいつもながら土産物などドッサリ買い込む姿が多く見られ、やがて動き出したバスも重そうに感じられた。昇仙峡に到着の一同は、三十分程のミニハイキングと銘打った遊歩コースに歩を運び、奇岩怪石と紅葉が組み合わさった景観を眺めつつ一汗かいた。次なる目的地野辺山高原への車中では、きのうの酒は何処に消えたのか、又々酒盛りが始まり、車窓から見え隠れする南アルプスの山々など、どこへやらの状況で年を感じさせない元気さであった。最後となる昼食は、場所柄「信州ハーブ鶏」を主とした食事で、この旅を振り返っての話題に花を咲かせながらの一時を過ごしたが、一方では土産物の買い足しの姿も多く、急がされながらの帰路となった。

各方面に分散のため立ち寄った神坂ＰＡでは、お互いに手をとり、肩をたたき再会を約する光景が随所で見られた。

最後に、この旅行の趣旨、意義を理解していただいて、毎回多くの方々に参加いただき盛会に行うことができることに対し、事務局として厚く御礼を申し上げるとともに、新たにこの旅行の趣旨、意義を理解し参加いただける方が出てくることを願っている。

（ジェイアール東海バス取扱額概算四百五十万円）

半田市鉄道資料館
屋外展示品をＪＲ半田駅北側へ移設

半田支部長　河合由平

五年に一度の「半田山車まつり」が十月六日、七日に行われた。市内三十一台のけんらん豪華な山車が集まり「はやし」や「からくり人形」を上演し、二日間で四十八万人ものすごい人出があった。

これに合わせて半田市鉄道資料館の屋外展示品であるＣ11２６５蒸気機関車と機械信号装置を三十六年間住み慣れた乙川駅南側の市民ホールから半田駅北側に移設された。

山車まつり当日は、この周辺に伝統芸能を披露する「ふるさと交流ステージ」やグルメショッピングなどが行われ、Ｃ11２６５も一般公開をした。機関車の運転室には、終日、子供たちが列を成して見学したり、機関車の前面に登ったりと、大変な賑わいで楽しかった。また、武豊線に関する資料を多数提供し、武豊線が地域の発展に大きく寄与したことをＰＲした。

Ｃ11２６５蒸気機関車保存会は、現在、会員五十名でその大半はＯＢ会員で、資料館の開館にあたり専門分野の知識と労力を生かし、貴重な遺産を数多く保存することができた。半田市から半田市鉄道資料館の管理業務が委託され、毎月第一、第三日曜日に一般公開し、全国から多くの方々が見学に訪れている。

鉄道資料館の内容は、屋外展示として、昭和四十五年に蒸気機関車の武豊線最後の「さよなら列車」をけん引したＣ11２６５が展示され、また昭和五十年に東成岩駅が継電連動化され、腕木信号機から電気信号に変換されたとき、その設備をＳＬに隣接したところに移設された。これにより、信号てこから腕木信号機までの信号連動装置を見ることができ取扱も可能であり、駅構内の安全確保がどのように行われてきたかが理解できるようになっている。

この鉄道資料館は、昭和五十二年に武豊線が自動信号化されたときに新設されたもので、屋内展示には、長期に亘り使用されてきた機械式信号保安設備の「通票閉そく器」が保存され、取扱可能で単線の駅間の安全運転がどのように行われてきたかが解る。ほかに駅、機関区、保守区が関連していたものが多く展示されている。

このように自動信号化以前の長年に亘る信号保安装置を取り扱うことができるのは、全国でも少なく、愛知県の近代化遺産として武豊線内で十一件登録されておるのは稀であり、貴重な遺産である。

千種駅前を美しく

千種名東支部副支部長　岩田敬二

日頃、千種名東支部会員がお世話になっている中央線の千種駅になにか恩返しをすることがないかと思案し、名古屋市営地下鉄と交差し、市バスへの乗り

換えも便利なため、毎日乗降客が多く、駅前にタバコの吸殻やゴミの投げ捨てなどが数多く見受けられるので、駅前付近を清掃してＪＲ東海のイメージアップをと考えて、昨年に引き続き鉄道の日の前日の十月十三日に、千種名東支部会員十五名が朝の乗降客が多い時間帯に駅前の清掃に出かけ、激しい往来がすぎるまで清掃を行ってきれいな駅前にすることができました。

これからも時々千種駅へでかけて、ＯＢ会員として、十一月から当支部は鶴舞支部と合併して名古屋東支部と名称変更になっても、ＪＲ東海への協力の一助となるよう努力を続ける話し合いをして散会しました。

第二回 静岡・焼津・藤枝三支部合同親善グラウンドゴルフ大会

藤枝支部　副支部長　村松　弘

秋の彼岸も過ぎ、少しは涼しくなるかと期待した九月二十七日(木)の午後、この日も夏の名残りを惜しむかのように「藤枝市瀬戸ふれあい広場」の公園も太陽は照りつけていた。

前回は、焼津支部主催で、今回第二回目となった。大会は当支部が当番と云うことであり会場の確保から始まり、参加者募集、皆さんに喜ばれる賞品の準備等々、八月始めから落ち着かない日々が続いた。幸い当日は、暑いとは云え天候に恵まれ順調に開催出来たことは何よりであった。

開会に先立ち三支部チーム集合記念写真を地本の白井事務局長さんの手を煩わしフイルムにおさめた。大会会長の村松藤枝支部長が挨拶し、開会の幕は開いた。

今回は静岡支部十七名(内女性二名)、焼津支部十二名(内女性三名)、藤枝支部三十一名(内女性十名)計六十名(内男性四十五名、女性十五名)で技を競った。

長老は「高齢者全国陸上競技」で数々の日本記録を樹立した今年九十二歳を迎えられる三輪正次さん(藤枝支部)で流石スポーツマン、矍鑠(かくしゃく)として打つ姿はうらやましくも思えた。

親睦を深めることが最大の目的とは云え、いざコースに立てばお互いに闘志も湧いてくるのも競技の心理、笑いの中にも、日頃の練習成果をはっきりせんものと秘める打球に目は走る。

勿論ルールは協会ルールに従い十二ホール二回の一回戦を終え集計表に集まる目、意を強くするもの、そのまま逆心境に落ち込む者さまざまな会話はずむ。暑さを忘れた熱戦も終り、例によっての表彰式、優勝は五十四打(Ｈ二)の河井かづ代さん(藤枝支部)、ちなみに最多打数は八十五打(男子)、本大会で上位三人は、いずれもご夫人の独占とあって、又どよめき一入、時効と思われた諺「戦後強くなったのはナイロン靴下と、女性」の神話は今日でも立派に生きている。

思うにＧＧで女性が上位を占めることは今回に限らず大変多く、これが、ＧＧの冥利につきる面白く良いスポーツである。今後も親善と、友情を深めこの大会を継続していきたいと思う。

次回は、静岡支部のお世話になることでお願いし事故もなく無事終わり十六時解散した。

最後に本大会に当たり関係の皆さんの、ご協力に心から感謝申し上げます。

富士山一斉清掃に参加

御殿場支部長　小松眞清

富士山をいつまでも美しくする会が、夏山シーズンの終わりを前に、御殿場市、裾野市、小山町など四市一町の行政などと行った八月十九日の富士山御殿場、須走、富士宮の三登山口での一斉清掃活動に我が御殿場支部も参加した。

当日九時三十分、御殿場口の五合目駐車場に四十四団体、約千六百人が集合し、一連のセレモニー終了後、三班に編成された。

当支部は、駐車場から下、スカイライン御殿場口入口及びその周辺沿いの範囲に決まった。各自ごみ袋を手に持ち、道路や雑木林の中など、暑い日差しを受けながら清掃作業を約一時間三十分行ない汗を流した。ごみは年々少なくなっているように思えた。全体では、五百三十キロのごみが回収された。美しくする会によると、ごみをトイレ、岩陰に置く悪質なケース

が目立っているとの話でした。

作業終了後、支部で用意した昼食の「おむすび弁当」を、綺麗になった砂地にシートを広げ、雑談をしながら食べた。作業後の食事の味は格別でした。

食後の後片付けには気を遣い、ごみは家に持ち帰り、チリ一つ残さず綺麗にしてバスに分乗して帰路についた。

来年も多くの会員の参加を希望し、本日は大変お疲れさまでした。

二〇〇七年秋　さわやかウォーキング「歩こみゃあ名古屋の文化のみち」のコース案内に参加して

名古屋東・守山・名城東北支部連合

ＪＲ東海の二〇〇七年秋のさわやかウォーキングでは、昨秋に実施して大好評を得た中央線千種駅での「みんなで歩こみゃあ名古屋文化のみち」が、さわやかな秋の好天に恵まれた十一月三日に行われ、名古屋市中心部のコースに多数の参加者が訪れ、「さわやかウォーキング」に相応しいイベントとして昨秋同様成功裏に開催されました。

コースは、城下町として歴史と文化の香り高い名古屋の歴史的な遺産と貴重な建築遺産の保存、沿道の景観と調和した緑道が整備された趣のある散策路で設定されました。（一般向きコース約十一キロメートル・約三時間）

千種駅→①建中寺→②旧川上貞奴亭→③市政資料館→④名古屋城正門から名城公園出口→⑤片山八幡宮→⑥徳川美術館→大曽根駅ゴール

（家族向きとして③から⑥への約七キロメートルも設定されました。）

この計画は、六月の各支部総会で来賓の千種駅長様から計画の概要をお聞きし、三支部とも協力させて頂くとお約束申し上げ、十月に入って千種駅と綿密な打ち合わせを行い、コースの主要ポイント九箇所でＯＢ会員が参加者の案内をすることになりました。

当日七時四十分に千種駅へ集合した三支部の会員十九名は、千種駅長の訓示と指示を受け、コース内に設置されたポイント九箇所の案内役として千種駅長の指揮下に入り、参加者が千種駅をスタートする八時三十分までには、各ポイントに就き、オレンジ色の腕章「東海鉄道ＯＢ会」を巻き、混雑する休日の名古屋市内での参加者の交通安全に注意するとともに、快適な「さわやかウォーキング」を楽しんで頂けるように誘導案内を行いました。

大曽根駅でのゴール受付終了の十五時過ぎを待って、千種駅長の指示により各ポイント九箇所を撤収して、十六時過ぎに大曽根駅に集合。千種駅長の謝辞を受け、それぞれ所属する支部長の解散指示により家路に着きましたが、使命達成感と無事に終わった安堵感で一杯でした。

「デゴイチ」見学会を実施

中津川支部　渡辺典雄

中津川市本町公園内に保存されている、Ｄ51２６６の清掃等のボランテアを担う「中津川市Ｄ51会」が、昨年に引き続き今年も八月十九日に見学会を開催した。

このＤ51は、一九三九（昭和十四）年の製造。七一年に引退するまでのほとんどを、中央線の輸送に活躍した。

引退後は旧国鉄から中津川市に貸与され、以来当支部ＯＢ会員が主体となり、一部民間の人も加入する同会の会員約五十人が、市とタイアップして、年二回清掃・保守活動をしている。

当日の見学会は夏休み中とあって、約五十人の親子がつめかけてにぎわった。

普段は網の

フェンスに覆われている「デゴイチ」に直接触れ、会員がＤ51の歴史や車体の構造などを説明すると、真剣に聞き質問する子供もいた。運転台に上がって運転席に座ったり石炭をくべるボイラーなどを見て歓声をあげ、また車体をスケッチするなど大いに楽しんでいた。親達もカメラに収めたりして、歴史の証人として保存されているＤ51に触れながら、往時に思いをはせていた。

さわやかウォーキングの応援

三河支部　鷲尾孝一

去る十一月四日（日）ＪＲ東海「秋のさわやかウォーキング」が、三河支部内の東海道線逢妻駅を起点に、刈谷駅まで約十三キロメートルのコースで、テーマは「ものづくりのまち刈谷と、産業まつりを訪ねて」として開催されました。

この日、刈谷駅長から参加者の誘導案内のため、コース途中に要員配置が必要との情報により、三河支部として誘導案内のお手伝いを申し出て、松本支部長以下八名の会員が朝八時三十分から各ポイントに就き、交通量の多い道路の横断や、トイレの場所案内等に従事しました。

地方本部から「東海鉄道ＯＢ会」の腕章を借り受けて、配置につくと早速参加者からの質問に答え、安全確保の誘導などをするうちに、現職時代の名古屋駅のお盆、年末輸送の旅客誘導も懐かしく思い出されました。また、参加者の方から「鉄道ＯＢ会の方ですか。ご苦労さまです」と言葉をかけられると、ますます張り切って終わりまで無事故であるようにと祈りながら、最後まで頑張ることが出来ました。

ＪＲによれば、当日は天候にも恵まれて参加者は約二千名とのことで、当支部内では毎年春秋ともに三～五箇所で開催されており、今後とも可能な限り協力し、増収の一助になればと願いつつ、関係者の感謝の言葉を背に、無事役目を終えた喜びと同時に、色々な意味で充実した一日となりました。

猿投温泉日帰り旅行

春日井支部　川島満雄

会員相互の親睦を図り、一日ゆっくり温泉に入りたい。安い、近い（程々に旅行の気分は楽しみたい）気軽に出かけたい。乗り換え回数が少ない（年齢が七十歳台後半では、どうしてもバス旅行になってしまうこと。）景色も見たい、観光地にも寄りたい、みやげ物も買いたい、ご馳走も食べたい。そんな皆さんの希望をまとめて、平成十九年十月一日に日帰り旅行を開催しました。

今回は、猿投温泉を計画したところ、七十三名（中型バス三台、温泉から送迎サービス）の参加者があり盛況裏に終了することができました。

出発では、地元県会議員や、市会議員のバス三台を廻っての挨拶と、見送りがあり、また、春日井市長からもメッセージが届けられ、私たちＯＢ会の日帰り旅行や日頃の活動に対し、お祝いのことばを頂きました。これも、実績を重ねていることが、各方面に認められたものと思います。

今回の特徴は、参加者が七十三名と回を追う毎に増えてきたこと。会員（幹事）梶川一明氏が春の叙勲で瑞宝双光章を受賞されたことと、故麦嶋和夫氏の叙勲（奥様出席）を発表し、全員拍手でお祝いしたこと。会員の他に、家族や友人も多く参加していただき成功したことでした。今後のＯＢ会活動が地元に根をおろした一方法かとも考えます。

途中、猿投神社に参拝、温泉に到着後は、入浴を済ませ、挨拶もそこそこに会食とカラオケの同時進行。隣組全員で合唱するグループもあれば、オカリナ・ハーモニカの独奏、日本舞踊、演歌など次々と熱演が続き、飲む程に盛りあがりました。

また、次回もと希望されると、楽しんでもらえてよかったなあと思いますが、高齢化社会の進む時代に、ＯＢ会支部をいかに維持するか、月一回の囲碁、将棋の集い、春秋二回のカラオケ大会、本部・支部主催の旅行の参加、ＯＢ会報・支部情報の配付、長期病気療養者への見舞金贈呈、あるいは、突然やってくる会員の訃報に対して、皆さんへの連絡、葬儀の参列。ＯＢ会の活動はこれだけでよいのでしょうか。もう少し地域に密着した活動なども含めて、将来の展望を模索している毎日です。

JR東海トピックス

JR東海の社内誌「おれんじ」10月～12月号の記事を抜粋して掲載しています。

総務部

社史「東海旅客鉄道20年史」の刊行について

平成19年4月、当社は発足20周年を迎えました。それを記念し、初めての社史『東海旅客鉄道20年史』を編集し、9月に刊行しました。

今回制作した『東海旅客鉄道20年史』は、当社の役員・社員がこの20年間、経営上の課題の解決にあたってきた経験を自ら次の時代に伝えることこそが重要と考え、本文から巻末の資料編に至るまで、ほとんどすべて社内で執筆・編集しました。

そのための体制として、平成17年7月に「社史編集委員会」（委員長・石塚副社長）が発足し、平成17年8月から平成19年5月まで9回にわたり、白熱した審議を重ねました。

各業務機関でも、事実を正確に記録するための資料や証言の収集、見やすい誌面とするための写真の捜索など、地道な作業が必要でしたが、会社発足20年という節目において、私たち自身の手で社内資料を整理できた意義は大きいと思います。

『東海旅客鉄道20年史』は、総ページ数886ページの大部となり、図書館・大学や、当社が平素お世話になっている社外の関係者の皆様に配布しました。社内向けには、各業務機関に備え付けたほか、手軽に社史の内容を参照できるよう、社内の情報ネットワークに収録しました。

この『東海旅客鉄道20年史』が、広く皆様の当社に対する理解を一層深めていただく一助となり、また社内、特に会社発足前後の時代を知らない若い世代には、当社のこれまでの取組みを伝える教材になればと考えています。

総務部

社歌の制定について

当社では会社発足20年を記念し「社歌」を制定することとし、東京藝術大学名誉教授の佐藤 眞先生に作曲を、作家の林 望先生に作詩をお願いしました。

佐藤先生は管弦楽曲、合唱作品などを多数作曲されている現在の日本を代表する作曲家です。林先生は「イギリスはおいしい」などの著作を多数、発表されている他、書誌学者としてもご活躍されています。林先生は作詩に際して当社の各職場をご視察され、安全・安定輸送を支えている「社員の団結」「日々の地道な業務」や、当社の「絶え間ない努力と研究により、高い理想を目指す姿勢」「技術・サービス面とも終着点がない鉄道において新時代を拓いていく誇りと力」などを社歌に謳われました。

この社歌は、10月15日、名古屋マリオットアソシアホテルでの効績章表彰式午後の部終了後、披露されました。またバリトン独唱・混声四部合唱などが収録されたCDが全社員に配布されました。

東海旅客鉄道株式会社社歌

林　望 作詩
佐藤 眞 作曲

1. 明け行く空の 茜雲に
見よ ああ一筋 光さすを
高く高く 理想に燃えて
遠く遠く いざこの道を
守れる我らに 矜持あり

2. 広野 男らき 山辺を行き
波打ち寄せ来る 浜辺を行き
勁く剛く 結べよ力
灯せ灯せ 安全の火を
翔け行く我らに 誓いあり

3. 使命を胸に 休む夜無く
幸いあれよと 弛む日無く
永遠に永遠に 進みて行かな
燃えよ燃えよ 新たな道へ
拓こう我らに 力あり

◆ JR東海トピックス ◆

人事部

おめでとうございます
効績章 表彰式

10月15日、第21回効績章表彰式を名古屋マリオットアソシアホテルで午前・午後の2部制で行いました。

表彰式では、松本社長から受賞者（749名）の各所属の総代6名に表彰状並びに効績章を授与しました。

続いて、葛西会長、松本社長が受賞者とご家族の方々の効績章受賞の栄誉を称えるとともに、「本日受賞された皆さまには、今後ともこれまで積み上げてこられた実績や培ってこられた実力をそれぞれの職場において大いに発揮するとともに、後輩社員への技術や技能の継承に、一層ご尽力いただきたい」と挨拶をしました。

これに対して、午前の部は静岡支社の伊藤鉄一さん（富士運輸区）が「本日の栄誉を胸に新たな出発点として、今後も業務に精励し社員一丸となって、JR東海のさらなる飛躍、そして社員、家族の幸せのため、全力を尽くすことを誓います」、午後の部は新幹線鉄道事業本部の櫻井力さん（品川駅）が「社員一人ひとりが会社の使命を強く認識し、安全・安定輸送の確保を最優先に諸施策に取り組み、これまで培ってきた知識・経験・技術を次の世代に継承し、時代のニーズを先取りできる強いJR東海を創るべく、今後とも鋭意努力する所存です」と受賞者を代表して答辞を述べました。

なお、この他の永年勤続者表彰についても、それぞれの勤務箇所において行いました。受賞者は20年勤続者表彰2名、15年勤続者表彰486名、10年勤続者表彰346名の計834名でした。

総務部

最新技術という、おもてなし。新しい新幹線N700系
「N700系」が第6回日本鉄道賞を受賞

「N700系」が第6回日本鉄道賞を受賞し、10月15日に授賞式が行われました。

授賞式は、「鉄道の日」記念祝賀会（ハイアットリージェンシー東京）で行われ、日本鉄道賞表彰選考委員会 森地 茂委員長（財団法人 運輸政策研究機構 運輸政策研究所所長）から松本社長に記念の盾が手渡されました。

日本鉄道賞は、「鉄道の日」創設の趣旨である「鉄道に対する国民の理解と関心」をさらに深めるとともに、鉄道の今後一層の発展を期することを目的として、鉄道の発達に貢献のあった鉄道事業者や団体に贈られる賞です。

「N700系」は、最新の高速技術を駆使して東京～新大阪間の時間短縮、車内静粛性アップ等の快適性向上による利用者利便の向上と省エネルギーを一段と推進して環境負荷軽減に極めて大きく貢献したことが高く評価されました。

▲▶授賞式の様子

▲N700系新幹線車両

◆ JR東海トピックス ◆

広報部
東海鉄道事業本部

迅速で丁寧な対応で旅客サービス向上

JR東海テレフォンセンター・サービス相談室を開設!!

11月1日、サービス相談室の開設及びテレフォンセンターを増強しました。広報部に所属するサービス相談室では、各地区の広報や営業課などのサービスに関するご意見などの電話窓口を集約し、専任体制でお客さまからのご意見・ご要望を受け付けます。

また、静岡テレフォンセンターを統合し強化されたテレフォンセンターでは、列車の時刻・運賃・料金・運行情報などのお問合せに、これまで以上にスピーディに対応します。

これらの体制整備に伴い、駅の電話受付を廃止(新幹線駅の車イス受付を除く)し、駅での出改札業務や接客業務などに専念してサービス向上につなげる体制としました。電話受付担当者の教育・訓練では、各地区の関係者の方々にお手伝いいただき、すべり出し1ヶ月の業務は順調に進んでいます。

今後とも各地区の営業課などと連携を密にして、新メンバーについては1日も早く業務に慣れ、引き続き旅客サービスの向上、JR東海のイメージアップのために、メンバー一丸となって取り組んでまいります。

▲JR東海テレフォンセンター・サービス相談室の皆さん

▲テレフォンセンター・サービス相談室が一体で協力して対応

人事部

安全への努力を誓う

19年度殉職者慰霊法要

10月13日、静岡県浜名郡新居町にある当社の殉職者慰霊碑にて、松本社長、中川副社長をはじめとする、当社幹部9名とJR東海ユニオンの水嶋委員長、そして殉職者のご遺族が参列して、18年度に殉職した1名の開眼供養と19年度の殉職者慰霊法要を執り行いました。

殉職者の慰霊法要は毎年この時期に行っており、同敷地内に祀られている御霊のご冥福をお祈りしております。

同敷地内には当社の慰霊碑の他、国鉄時代の殉職者を祀った碑も設置しています。長い鉄道の歴史において多くの方々が殉職され、今日のJR東海が在るのは、その尊い御霊に見守られているということを心に留め、これまでのような事故を引き起こさぬよう、弛むことのない安全に対する努力を行う、と松本社長から挨拶がありました。

▲殉職者慰霊法要の様子

▲挨拶する松本社長

///グループインフォメーション

新幹線・在来線主要駅を中心に旅行業を展開
㈱ジェイアール東海ツアーズ

▲35支店で旅行業を展開（新横浜支店）

当社は、東海道新幹線、在来線主要駅構内を中心に35支店で旅行業を展開しています。ＪＲ東海の施策とタイアップした京都・奈良や東京ディズニーリゾート等へのお値打ちな商品、「50+（フィフティ・プラス）」会員さま向けのオリジナルツアーをはじめ、近年は山陽新幹線またがりの山陽・九州向けの旅行商品も充実させ、増売に努めた結果、昨年度は主要旅行業者中、国内旅行部門で初めてベスト10に入りました。また、旅行商品だけでなく、駅構内でのＪＲ券の即売やエクスプレス予約法人契約企業へのフォロー業務にも取り組んでいます。

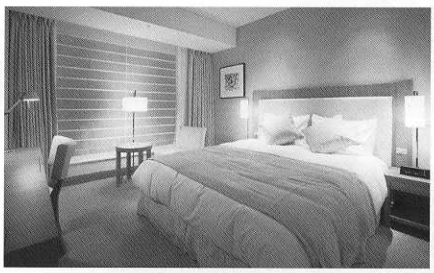
また、当社では、昨年度ホームページのリニューアルを行い、「旅の通販デスク」を新設して、これまでの電話通販に加え、インターネットを活用したお客さまの新規開拓に努め、大きな成果を上げています。

当社では、ＪＲ東海グループの旅行会社として、職場旅行のご提案などで皆さまの職場にもうかがっています。また、ご家族で旅行に行かれる際には、割引制度がありますので、ぜひ当社をご利用ください。社員一同、皆さまのお越しをお待ちしています。お近くの支店にお気軽にお問い合わせください。

▲楽しい旅のご案内（各種旅行商品パンフレット）

●旅行に関する情報は当社のホームページでご案内しています。
ホームページ　http://www.jrtours.co.jp/

すべてのお客さまに喜びを提供
㈱ジェイアール東海ホテルズ


◀▲来年4月に開業する「ホテルアソシア新横浜」（上：フロントイメージ、左：客室）

当社は2008年4月、新横浜に「ホテルアソシア新横浜」を開業いたします。このホテルはアソシアブランドとして初めて関東圏へ出店するホテルであり、約200室の客室は明るく自然な色のデザインにまとめ、最新の設備とあわせ快適で居心地のよい空間をご提供いたします。また、足元から天井まで一面に広がる窓からは、横浜ならではの眺望もお楽しみいただけます。

2009年に開港150周年を迎え、ますます魅力を増す横浜へ、JR東海社員及びご家族の皆さまのお越しをお待ちしております。ビジネスにもレジャーにも最適なホテルの誕生をご期待ください。

「安心」「満足」そして「感動」を！
㈱東海交通事業

▲忘れ物承り所

▲レンタカー事業部

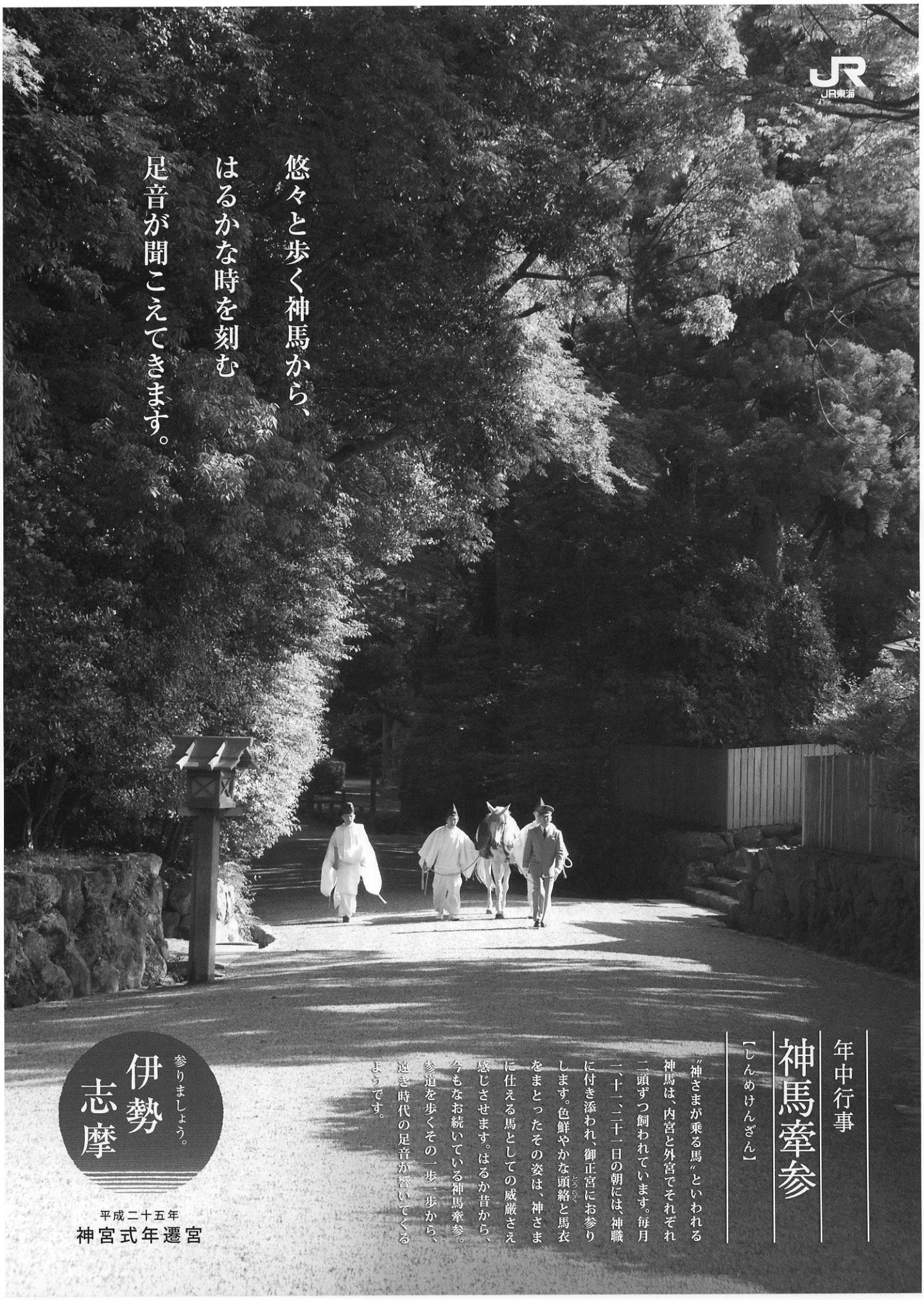
当社は、JR東海の100%出資会社として昭和63年2月18日に設立され、駅窓口業務の受託を主体として営業を開始しました。

現在は、約600名の社員が主に在来線エリア113の駅とテレフォンセンターで仕事をしている他、勝川駅と枇杷島駅を結ぶ城北線の鉄道運営を行っています。また平成16年10月1日に株式会社駅レンタカー中部と合併し、レンタカー事業を開始いたしました。

駅でのきっぷの発売や旅行のご案内、忘れ物の手配、車いすによる乗降のサポート、テレフォンセンターでの電話によるご案内を通じて良質なサービスの提供に努めています。また駅舎や分岐器清掃業務、自販機による販売、駅前月極駐車場営業も行い、JR東海の大切なお客さまへのサービスの一翼を担っています。

名古屋市北部を走る城北線の沿線には名所・旧跡が多数あり、春と秋には沿線ウォーキングを開催しています。元旦には眺めの良い絶好ポイントで一旦停車し、初日の出を眺めるなど好評を博しています。

レンタカー事業部では新幹線停車駅と高山駅の11営業所で、安心・快適・便利をモットーにお客さまにご満足いただけるお車を駅から目的地までご提供しています。


JR
JR東海
悠々と歩く神馬から、
はるかな時を刻む
足音が聞こえてきます。
年中行事
神馬牽参
【しんめけんざん】
〝神さまが乗る馬〟といわれる神馬は、内宮と外宮でそれぞれ二頭ずつ飼われています。毎月一、十一、二十一日の朝には、神職に付き添われ、御正宮にお参りします。色鮮やかな頭絡と馬衣をまとったその姿は、神さまに仕える馬としての威厳さえ感じさせます。はるか昔から、今もなお続いている神馬牽参。参道を歩くその一歩一歩から、遠き時代の足音が響いてくるようです。
参りましょう。
伊勢志摩
平成二十五年
神宮式年遷宮

読者のひろば

渋柿と弁当

名古屋東支部　児嶋守好

K君、長らくご無沙汰していて、まことに勝手なお願いだが、次のような話を、ＯＢ会報に投稿してくれないか、僕はどうも文章を書くのが苦手なんでね。

という前書きで、次のようなことを書いてきたので、どうぞよろしく。

君と一緒に管理部の貨物当直にいたのは、もう六十年も昔の話だね、その頃の話なんだ。君も僕も若く新米で、高山線、越美南線の配車当直をしていた頃の話だけど、今この話をしておかないと、もうチャンスがないと思うんだ、それで思い切って打ち明けたのだ。

あの頃よく、担当の高山、越美の方へ出張したね、僕がたまたま高山線へ出張した時のこと、美濃太田駅で高山線の列車へ乗ったんだ、職員だから遠慮して、入り口すぐの座席に座って間もなく、若い和服の娘が、僕の向かいに座ったんだ。車内は、他にも空席があるのに、とふと不審に思ったが、とにかく、僕が座をしめた一角が、パッと明るく派手な雰囲気に包まれた。着物の柄などのことはわからないが、とにかく僕の黒っぽい服とは対照的な、ピンクとか、黄色とか、派手な色彩だった、戦争中だからモンペを着けていたがまるで袴のように見えた。容姿も美しく、品もあった。僕は、このお人は、何処か高山線の有力者の娘さんではないかと思った。

そのとき、その人は、持ち物のカバンから、柿を取り出して、僕に、どうぞと差し出したのだ僕は驚いたが、折角と思って、もらって、一口カブリついたら、なんとその柿が渋かった。僕の顔付きで、渋いと察した彼女は、あ、渋いんですね、すみません、といって、又一つ取り出して僕に渡すと、自分も取り出して、食べかけた。

このいきさつに僕は、少々まごついていると、恰度その時、車掌が検札に来た。僕は勿論、職務パスを見せた。そのときなんと彼女も職務パスを出したではないか。しかも彼女は当然という顔をして、僕は思い切って、「貴方も職員ですか？」と尋ねると、ハイ、美濃太田駅ですという。それから、少し打ちとけて話をしたら、彼女は電話の交換手だという。それに、彼女の話によると、僕の様子から、声から、管理部の配車当直の人ではないかと思っていたという、そこまでわかるのかと思ったが、なんのことはない、毎日、毎晩、深夜に至るまで、電線を通じて、事務的な話をしていたのだ、女の直感で、あの声の特徴のある人だと思ったんだ、とあとでわかった。

その後、どうなったのかは覚えていないが、何処かの駅で、僕か、彼女は下車したものと思うが、記憶がない。

それから間もなく戦争がきびしくなって、美濃太田へ出張当直をすることになったんだね、或る時、美濃太田の交換手が、僕に、あなたは何時、美濃太田へ当直にいらっしゃるの？というから、軽く、何日、と云っておいたが、そのことも忘れていた当直の日に、美濃太田で昼食を食べに行こうと席を立ったら、君の弁当は届いているぞ、交換手の人が先刻、君にといって持ってきたよ、若いもんはいいね、と先輩が云うので、控室へ行くと、なるほど、四角な黒の膳に、真白なご飯に、おかずが、二、三品そえて、セロハンでしっかりはって、置いてあった。エッと思ったが遠慮なく戴いた。そういえば、先日、僕に当直の日を尋ねた彼女に違いない。早速お礼を云おうとして電話すると、もう明け番で帰りました、という。あとで、そのとき、名前を聞いておくべきだと思った。それから、そんなことが二度か三度あったが、つい多忙もあり、名前を聞きそびれてしまった。というのは、今に判るだろうと思ったのが間違いであった。

間もなく僕は応召して、入隊した。そして半年たって復員してみると、美濃太田の当直はなくなり、僕も、中央、関西を担当する様になり、彼女らしい人と話をするチャンスもなくなった、というより、終戦という大きな出来事に、すっかり忘れてしまっていた。

ところが、この年になって、ふと気がついた、あの時柿をくれた彼女が、僕に弁当をくれたんだ、そうに違いないと気がついた。

そして僕はついに彼女の名前を知らなかった。しかし彼女は、名指しで弁当を届けてくれたから僕の名前を知っているはずだ、僕は何んとうかつだったろう、もし彼女が存命であったなら何んといって詫びたらいいのだろう、と思った。だからこうして昔の話を君にしたんだ。今まで一人で悩んでいたことを君に話して、身が軽くなった。ありがとうK君

さようなら

地獄を生きて

長泉支部　杉山安秀

私が徴兵検査を受けて静岡の歩兵三十四連隊に入隊したのは二十才の年でした。その年の昭和十九年に中国の前線基地に送られました。当時の戦況は、蒋介石政権が山岳地帯の重慶に退却して立て籠りアメリカの支援を求めて守勢に立たされておりました。

前線基地と言うところは、重慶に最も近い「遊河」という部落でした。この基地に辿り着くまでにはカーチスP51のアメリカの戦闘爆撃機の攻撃に曝され、又、長い道のりに重い装備に耐えかねて、千人針を始め腕時計などの私物は全部捨ててしまいました。

基地と言っても、農民が避難した空家を利用して設営されたもので設備は全く整ってはいなくて、一時的に駐屯していて目標は、重慶を総攻撃する命令待ちの体勢でした。携行兵器は、三十八式歩兵銃、十一年式機関銃、手榴弾、てき弾筒、と言った小火器でした。

寝泊りする家は、日干し煉瓦を積み重ねて造った粗末なもので勿論、電気も飲料水もなく、クリークのたまり水だけが頼りでした。

訓練は決められたように、匍匐前進、そして、突撃！と繰り返し行われました。

何と言っても食糧事情は深刻で、飢えとの戦いでもありました。飯上げの頃になると誰でもが殺気立ちました。少しでも盛りの良い飯盒を狙って奪い合いが始まりました。そして、飯盒に有りつくと、周囲を警戒しながら横取りされぬように食べました。

この基地にやって来て半年も経たぬ内に、仲間同志は無口となって、人間らしさが消えてゆきました。体は痩せ細り、髪や髭は伸びて何かを狙っているような、ぎょろぎょろした目つきとなって野性化してきました。

夜眠る時は、土間の上にすし詰め状態でごろ寝を余儀なくされました。しかし、おびただしい虱や疥癬に悩まされ苦しめられました。虱は毛布や襦袢に巣くっていて、疥癬は小さな目に見えない虫が体の毛穴に寄生していて、夜になるとこれらが動き出して、その痒みは激しく堪えられない程の痒みでした。

このような極貧状況のもとでは様々な病気に罹りました。皮膚病に冒され、化膿して大きくなります。冬には凍傷に悩まされました。鳥目という病気は、夜になると、側溝も川も皆平らに見えて区別が分らなくなり、夜間の突撃訓練には不安で一杯でした。

夜間は交替で歩哨に立ち警護に当たりました。異国の夜は不気味で暗く、静寂そのものでした。きこえてくるものは狼の吠える声だけでした。日本で過ごした色々な姿が、暮らしの一つ一つが恋しくなって如何に幸せであったかを思い知らされ、当たり前のように暮らして来たことを嘆くばかりでした。再び戻ることの出来ないだろう！と飽きらめと宿命を悲しむばかりでした。

満月の夜の歩哨は、望郷の念に焦がれましたが、月を見上げていると、故郷と心の対話をしているようで、心が癒されました。

旅（他火）（足袋）

長泉支部　宇津木弘利

四十年の国鉄生活で心に潤いを与えてくれたのが「旅」である。今もその恩恵に浴し旅に心の安らぎを与えてくれている。

「他火」

旅行中のある寺でこんな話を聞いた。昔の旅人は米と塩を背負い、途中野宿をし乍ら目的地へ向かった。夕方寺や神社の軒下で夕げの支度で火を燃やす。それを離れた部落から見て、あそこに何処かへ行く人が居る。それが他の火の語源で更に旅となった。

「足袋」

昔、女の人は足袋をはいてワラジをはき旅をした。それが旅の言葉となったとも。

此の二説どちらが正しいか分らないと云う。面白い話だと思う。

旅の種類に三つある（点）（線）（面）

東北旅行の汽車の中で知らない人と隣合せた。その人が私は今日は面の旅ですと云った。今は乗り物が早くなって点の旅が多い。飛行機で北海道や九州へ行き、その土地だけをみる、旅に必要なのは距離感それが薄れている。途中の変化や人情にふれる事が無くなって、旅の最も大事な部分が失はれている。そんな話をしてくれた。自分も東北へ旅行の時上野が好きだ。あの駅には之から旅をすると云う意気が溢れている。でも今新幹線が東京始発で旅の情緒が薄らいでいる。

京都のある寺で入口に拝観料三百円としてあった。冬で客が私達二人「重文」の仏像四体の前にお坊さんが居た。そこでの話し「この仏像の目は水晶ですネ、昔よくこんな尊い物が」と云うとお坊さん「之が水晶だから国宝にならない。ガラスだったら良いのに、水晶は日本に多くあるがガラスは遠くシルクロードから来た貴重品」成程更に拝観料に後から一本書入れてあるが書き直したらと云うと俺は正直だよ、といとも簡単に答えた。お説教を聞く、胸に来た、旅の一コマ。

退職して三十三年前後三十年は妻と二人旅、それが

一人になって二十七年思い出の地が多く年に一度必ずその地へ行き妻の姿を思い浮かべて郷愁にそそる。

奈良の寺で客にお坊さんが向こうに見える山を寺の山として借りています。之を借景と云います。そこで私が「私女房を借りて来たから借妻ですか」、皆が笑ったが坊さん困った顔をした。自分は妻から強く叱られ、妻は帰りにお坊さんに謝った。

私は日本縦断旅行を二度やった。九州南端で観光バスでガイドが「特攻の兵が今日も飛び立った。町の人達が、みな手を合わせ涙乍ら見送った」と語り、みんなバスの中で涙した。私の弟はハワイ空襲の赤城から発進し戦死した。でもこの特攻隊からみれば幸いであったよう。

国鉄のお陰で心の安らぐ旅行に感謝します。

北海道へ九回東北へ四十年毎年、上信越六回、関西八回、九州八回、四国六回南紀九回、京都十六回の旅行をした。改めて国鉄に感謝します。

十代の思い出

垂井支部　丸岡　正

十三才の春、初めて親元を離れて、名古屋の学校に入学し、寄宿舎生活を始めました。

折りしも支那事変の真っ直中で、食糧事情は良くありませんでした。一日にかんぱん一袋、大根飯に味噌汁の日は良い方でしたが、上級生が先に中味のうどんを実にうまく掬うので四人目くらいからは汁だけになってしまいました。でも、汁だけでも早く掬わなければ、一杯も食べられない事もありました。まさに食事戦争でした。母が作って送ってくれた黴の生えた鍋焼き（小麦粉をこねて焼いた物）ですら、とてもうまかったのを覚えています。

部屋は、四畳半に三人で、窓ガラスには南京虫、パンツの紐には虱の行列と蚤の山で、俗に豚舎と呼ばれるほどの生活環境でした。ある夜、「全員、二階に集合せよ。」という寮長の声が寮内に響き渡りました。部屋の電気が消された真っ暗の中、一人一人順番に部屋を通るように指示されました。何があるのかと思ったら、「只今から気合いを入れる。」と理由なき往復ビンタをされるのでした。上級生は五人程で、最低でも五回は殴られると覚悟をしていましたが、横から誰かが引っ張るので、その方へついて行くと、それは、同郷の上級生でした。私は、おかげで一発も殴られずにすみました。この時ほど、同郷の先輩の有り難さを感じた事はありませんでした。

大東亜戦争が始まり、学生は挺身隊として軍需工場へ行くことになりました。学校は、半分が軍需工場に変わり、それからは毎日旋盤の取り付けを手伝いました。勉強どころではなかったのです。でも、毎日学校で合唱した「国鉄精神の歌」・・・轟け鉄輪、わがこの精神・・だけは忘れることができませんでした。

そして、十六才で米原車掌支区に入省し列車手を拝命しました。日給一円十銭でした。

新前だったので、苦労の連続でした。ある朝、ストーブの火付の際、なかなか火が付かず部屋中が煙だらけとなりました。内勤車掌が、「ばかもん。」と叫ぶなり、バケツ一杯の水をストーブにかけました。勿論ストーブは消え、中の亜炭は水がしみて使い物になりませんでした。その時、そばにいた別の車掌が、石炭入れを持って機関車に行き、石炭を貰って来てくれて、直ぐに火を付けることができました。それからは、度々その手を使ってストーブに火を付けました。教えてもらって、本当に助かりました。

二十年六月に、車掌見習試験に合格し、蟹江の旅館で車掌見習い講習を受けました。長島の鉄橋が爆撃されたのもその時でした。カラカラと爆弾の音がしたので、通りの真ん中で腹這いになりました。凄い地響きでした。同僚と生きていたことを喜び合いました。

そして、昭和二十八年八月十四日の終戦前日、名古屋車掌区車掌を拝命しました。因みに初任給は、四十二円でした。十七才になっていました。

モロッコがすきだから

身延支部　深沢　満

美しいタイル装飾のブー・ジェルド門、迷宮都市、世界最大の迷路、最古の都市これがフェズ・エル・バリの入口だ。網の目のような細かい路地が続くメディナ（旧市街）千年以上の歴史を刻んだ、九世紀にできた古い街、この街は夢幻の世界。夢空間モロッコ旅行で一番の目的地。

人生の迷路を歩いた私が、迷路の街をさまよって見たい、自分流の旅づくり。四人のツアーフレンドを二組に分けて出発だ。城砦の門をくぐれば、街全体が見どころ、世界遺産に登録された、車が通れない細い道、千本もの袋小路、小さく狭い暗い路地、香料の店、下り坂、家具のスーク（店）、地を這うように聞こえてくる、モスクからのコーランの祈り。

朝霧に煙る神学校、ブー・イナニアメデルサ暗いトンネルの道。人が二人並べばいっぱいジュラバ（民族衣装）を着た老人たち、ベルベルの少女達のカラフルな衣服、モロッコの子供達の、くったくのない笑顔、衣料品のスーク、染色職人のスーク、木の実のスーク、な

つめ椰子の店。
荷物を背負ったロバが通る。外国人の観光客、とにかく狭い。今の自分の居場所がわからない。感動と好奇心、道に迷って喜んでいる、ちいさな広場に出た。大理石の泉がある。同じ処をクルクル廻っているような感覚。
くさいフェズ川のほとりにある皮なめし工場、タンネリー、動物の皮のにおい。キサリアと呼ばれる絹製品の店、昔ながらの鍛冶屋の店、又広場に出た。
素足で踊る女性のシニヨン飾りが、妖しくゆれている。ヘイ・ジャポネ。アラブの人の呼びかけも、あとの言葉はわからない。
つかれる、迷う、おもしろいこと、びっくりすること一〇〇倍。日本に帰れば、又来たくなると想う。

短歌

岐阜城の天守に立ちて見下せば
　吾も城主になりたる気分
幽玄の時限に遊ぶ鵜飼舟
　鵜匠の捌きに鵜は水に舞う
岐阜工事局支部　伊藤博司

川面を篝火照す鵜飼船
　我もなりたや鵜匠の手さばき
この歳でやり残せし事多かりき
　迎えはいらぬと願う毎日
名古屋機関区支部　服部幸夫

戦友と七十歳(ななとせ)続く親交は
　我れ生涯の正に生甲斐
松の木の根方に自生の白百合が
　招くが如く風に揺れゐる
裾野支部　池谷秀夫

アスファルトの僅かな隙間草五本
　われの背丈に近ずいている
天空に大き音せし花火なり
　ふっと思えり爆弾の音
浜松支部　原　哲

職退(の)きて二十年の農鎌研ぐも
　畝を立つるも妻に及ばず
この線の駅長助役なくなりて
　君らの夢はと車掌に問へり
上伊那支部　竹内滋一

俳句

醒ヶ井の梅花藻揺れる湧水川
真紅なる夕日落ちゆく秋の海
満月を眺めて夕餉老二人
西濃支部　高畑正良

めずらしき人と会ひたる盆の墓
晩年の働く汗を思ひきり
夜干梅亡き母のことふと思う
沼津支部　山田寿男

敗戦忌歩む電話の世に生きて
原爆忌折目正しき千羽鶴
敗戦忌つゞく俳誌の薄かりし
津支部　濱口義徳

秋天や尖り屋根の喫茶店
天平の古刹へつづく萩の花
梵鐘の重き響きや古都の秋
浜松東支部　大倉照二

甲羅干す亀の欠伸や終戦日
嬰子にそっと添寝の団扇風
川釣りやスッポンかかり盆休み
名城東北支部　岡本清一

終戦日あの時一兵いま八十路
面取りし幼な剣士の宝汗
佛徒われ鮎の塩焼かぶりつく
岐阜支部　堀　敬太郎

川柳

がんこ爺々今夜も一杯呑んでおり
とぼとぼと共に百まで歩こうよ
美濃太田支部　竹内幸一

適当という加減さがむずかしい
教えてるつもりが逆に教えられ
沼津支部　山田寿男

カタカナ語漢字のルビ付けて読む
わだかまりいつか解けると野良に出る
四日市支部　小川　勇

一歩づつ老いの坂道踏みしめる
性格を見破られてる隅の席
富士宮支部　渡辺定善

健康を心に刻み万歩計
古希越えて孫のメールにほくそ笑む
笠寺支部　稲塚正一

敗戦日そっとくぐった縄のれん
ＯＢが咲かす紫陽花無人駅
美濃太田支部　三島次朗

駅探訪

身延線 甲斐岩間駅

●開　業／昭和2年12月17日
●所在地／山梨県西八代郡市川三郷町岩間

富士川沿いを走る身延線。甲府盆地の南西に位置する甲斐岩間駅で列車を降り、周辺の散策に出た。2001年に建て替えられた二代目の駅舎を抜けると、巨大なはんこのモニュメントがひときわ目を引く。ここは「日本一のはんこの里」として知られる市川三郷町・六郷地区。これまで六郷町と呼ばれていたが、2005年10月に隣接する市川大門町、三珠町との合併によって市川三郷町となった。それぞれの町名からかけ合わせたものだが、「三郷」には三つの町が集まったとの意もあるという。駅周辺には、はんこ屋が並び、歩いて2分ほどの場所には「はんこの資料展示館」（市川三郷町地場産業会館）がある。

印章にまつわる様々な資料が展示されている館内には、明治時代初期からの印章彫刻に使用した道具類や製造工程を紹介するパネルの他、印章販売に関する注文書やカタログ、昭和初期の新聞広告など、はんこの里ならではの珍しい品々がずらり。先人達の印章彫刻への思いや技術力の高さをうかがうことができる。希望すれば篆刻体験もできるという（要予約）。

もうひとつ同町の地場産業として忘れてならないのが和紙。手漉き体験もできる「なかとみ和紙の里」に足を延ばしてみた。和紙製造の歴史も古く、甲斐源氏の時代にまで遡る。江戸時代には徳川家の御用紙として幕府に献上されるなど、品質の確かさは広く知れ渡っていたようだ。1000年以上も続く伝統の技術は現在まで受け継がれており、中でも障子紙は全国シェアの40％（日本一）を占めるという。

印章と和紙、いずれも山間で耕地が少なく農業生産に向かないことが地場産業を発達させるきっかけとなった。散策の仕上げに、町営温泉「六郷の里 つむぎの湯」につかり、伝統技術を研磨した匠たちの歴史を想った。

駅探訪は、JR東海の社内誌「おれんじ」12月号から抜粋し再構成したものです。

「会報への寄稿、文芸欄への投稿」要領

1「表紙写真」

会報誌の表紙に掲載する写真も会員から募集しております。表紙の写真が会員からのものでなくては会報誌としての意義がありません。応募写真は、それぞれの会報誌発行時の季節にあったもので、画面に列車等が入っていなくても結構ですが、JR東海エリア地域内のものが好ましいと希望します。

カラーB五サイズ以上一枚、ポジフィルム、デジカメデータ（解像度A四サイズで三〇〇DPI以上）送付別紙に所属支部、氏名、住所、電話番号を記入し添えて下さい。

なお、複数ご応募いただいた場合には会報編集委員会にて採用選考させていただきます。

また、お送りいただきましたもののうち、ポジフィルム、デジカメデータ記録媒体については、後日お返しいたします。

2「支部だより」

OB会活動の原点は支部における活動であります。今後さらなる活性化のため、お互いにそれぞれの支部の運動方針や活動状況等を参考のために是非投稿して下さい。

なお、支部総会、支部クラブ活動、会員交流会、増収協力旅行、清掃美化運動、事故防止運動等支部からの「たより」を随時受付いたしております。テーマ、内容等は自由ですが、六百字目途にまとめ、執筆者氏名を明記し、状況のわかる写真をできる限り一枚添えて下さい。

3「読者のひろば」

会員からの「随筆、情報、体験談等」の寄稿を受付けています。テーマ内容等は自由ですが、千二百字以内、挿絵、写真等の掲載希望はいずれか一枚以内とし、所属する支部、氏名及び住所、電話番号を明記して下さい。

4「絵手紙」

会員からの「絵手紙」の募集を随時受付けています。色彩が鮮明なもので会報発行の時季にあったものを歓迎いたします。応募年月日、所属する支部、氏名及び住所、電話番号を明記して下さい。

5「短歌、俳句及び川柳」

会員からの「短歌、俳句及び川柳」の募集を随時受付けています。

応募は、会報発行毎に、一名種別ごとに官製葉書一枚に、短歌は二首、俳句は二句、川柳は二句以内に限り、会報誌発行の時季にあったものとします。

記入の際に、冠部の「短歌」「俳句」「川柳」と朱書し、応募葉書には、応募年月日。所属する支部、氏名（本名を記入する）及び住所、電話番号を明記して下さい。

6「掲載要領」

寄稿又は投稿された作品等は順次会報に掲載いたしますが、応募状況や紙面の都合、発行時の季節に合わせるなどして、掲載が遅れる場合がありますからご承知下さい。

なお、誤字等は修正させていただきますが、寄稿又は投稿された原稿は返却いたしません。

7 寄稿及び投稿先

〒四五〇―〇〇〇二
名古屋市中村区名駅三―十三―十二
キヨスク名駅ビル内
東海鉄道OB会・会報編集係宛

編集後記

会報第十二号（正月号）の編集と今後のお願い

会員の皆様あけましておめでとうございます。

東海旅客鉄道株式会社代表取締役社長松本正之様から皆様に新年のお祝辞を賜り、御礼申し上げるとともに、JR東海グループで東海鉄道OB会の法人会員である各位様からも新年のお祝辞を賜りありがとうございました。

今年もJR東海及び関連グループ各社様から参考となる話題等のご提供をお願いし、会報の充実に努めたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

一　齋藤会長の年頭のご挨拶「OB会の新しいページを開こう」にありますように、経済・社会の構造的変化の中にあって、OB会として何をなすべきかを考え、実行し、「昔なじみの仕事仲間」のよりどころとなるような魅力的なOB会づくりに向けて邁進しようではありませんか。

二　名古屋地方本部の千種名東支部と鶴舞支部が十一月一日に合併し、名古屋東支部として発足しました。

三　これまで何回かお願いしておりますが、最近入会された会員の投稿がありません。ベテラン会員のパワーに負けないで、忌憚のないご意見をどしどし出してください。

四　読者のひろば」の俳句について沢山のご応募ありがとうございます。多くの皆さんの作品を紹介したく思いますので、これまで「三句」であったものを次号から「二句」に変更させていただきますのでよろしくお願いします。

五　会員数の減少傾向が続いています。本年度の上半期でも個人会員数が百七十名の新規入会がある一方で、高齢化に伴う四百五十名の死亡・退会があり、差し引き二百八十名の減少となっています。未加入のJROBを勧誘して会員増強に努めましょう。

（杉浦）

発行　〒四五〇―〇〇〇二
名古屋市中村区名駅　三丁目十三―十二
キヨスク名駅ビル内　東海鉄道OB会本部
発行人　杉浦　定行
電話　〇五二―五六二―六〇八〇（FAX兼用）